

◆スタッフあいさつ◆



横田 敦

私が穴水での田舎時間に初めて参加したのは2005年5月に行われた田植え作業。穴水の自然の恵みのすばらしさとお世話になる受入先の方々の温かさに感動し、気がつけば5年間で18回も穴水にお邪魔しています。東京生まれ東京育ちで田舎のなかった私にとっては、おこがましいですが、初めて「田舎」と言える場所ができた気分でうれしい限りです。

田舎時間の活動も、早いもので9年目を迎えようとしています。これまで活動してこられたのも応援して下さった皆様のお陰と感謝しております。私は昨年までは一参加者でしたが、今年からスタッフとして田舎時間と関わりながら田舎の魅力を伝えていきたいと思っています。今後とも田舎時間を宜しく願いいたします！

◆田舎体験事業報告◆

2010年前半の田舎体験活動は石川県穴水町を中心に実施しました。ちょうど農閑期で、実施回数は少なかったのですが、多くの方からのお申し込みがありました。6月から11月の農繁期も楽しい企画を用意していますので、スタッフからのお知らせメールをお見逃しなく！

<2010年1月～5月 活動記録>

3/13～3/14 牡蠣の収穫（穴水）
5/8～5/9 田植え（穴水）

*企画ツアーとは別に、個人で現地を訪れている方もいらっしゃいます。



牡蠣の収穫（穴水）

新年第一弾の穴水での活動と言えば、毎年恒例の牡蠣の収穫作業。今年は初参加者3名を含む8名で行って来ました。作業と言っても、夕食で自分たちがご馳走になる牡蠣を水揚げするので自然と笑みがこぼれますが、作業は結構大変。牡蠣が何十個も付いたロープを海から引き揚げ、泥まみれの牡蠣を一つ一つ洗います。「牡蠣がいつも見慣れたきれいな状態で食卓に並ぶまでにこんなに地道な作業があるんだなあ」と作り手の方々への感謝の気持ちを抱きつつ、能登の海の恵みを思う存分堪能して来ました。

また、2日目はシイタケ栽培のお手伝いをさせていただきました。原木にドリルで穴を開け、シイタケ菌のついたコマを木槌で打ち込み、森の中に原木を組みました。シイタケができるまで何と2年もかかるのだから、2年後の収穫が今からとても楽しみです。（横田敦）



田植え（穴水）

毎年稲刈り体験を受け入れてくださっている穴水町岩車の河端さんの田んぼで初めての田植え体験をさせていただきました。田舎時間では過去にも田植え体験を行ったことはありますが、河端さんの田んぼでは初めてです。

田植え機ではうまく植えることのできなかったところや機械が入れない田んぼの隅のほうに苗を手作業で植えていきました。これを補植といいます。参加者は全部で約1ヘクタールある田んぼに入り、ぬかるむ泥の感触を楽しみながら（悪戦苦闘しながら？）気持ちのよい青空のもとで2日間作業をしました。



田植えは参加者のほぼ全員が初体験でしたが、河端さんや新田さんの驚くほどのスピードで作業は進み、予定していた枚数の田んぼ全ての補植を終えることができました。（木村聡）

◆2010年度年次総会のご案内(6月20日)◆

田舎時間の活動は、2002年の第1回から数えて開催回数が100回を超えるまでになりました。ここまで続けてこられたのも、日頃から支えてくださる会員の皆様のおかげです。ご支援ありがとうございます。

今年も年次総会を開催し、この1年間の活動報告をはじめ、今後の田舎時間のあり方などについて皆様と議論させていただきます。

今年の年次総会は2010年6月20日(日)に開催します。今回はフィッシュグローブさんが港区外苑西に新たにオープンしたおしゃれなキッチン付オフィスをお借りします。総会後には穴水と上山の旬の味を堪能する「田舎時間ランチ」も予定していますので、こちらもぜひご参加ください。参加申し込み方法等の詳細は、別途案内メールをご参照ください。皆様との再会を、スタッフ一同楽しみにお待ちしております！

◆「2009年やまがた公益大賞」に選ばれました!◆

田舎時間の上市市での活動が「2009年やまがた公益大賞」に選ばれました!

やまがた公益大賞は、山形県に貢献したNPO等の団体による公益活動を顕彰するものです。県内の団体が主な対象ですが、この度山形県庁の方の強い推薦もあり、応募しました。書類選考を経て、3月17日に山形県庁で一般の方々に向けてプレゼンテーションをしてきました。

公益大賞には田舎時間を含む5団体が選ばれ、その中から最も優秀な団体にはグランプリが贈られました。惜しくもグランプリは逃しましたが、都会と農村をつなぐというコンセプトに共鳴くださり、「ふるさとかけはし賞」という特別賞を頂きました。地道に着実に進めてきた活動が少しずつ地域に根付いてきていることを実感しました。(真野秀太)

※やまがた公益大賞の詳細は、下記ホームページをご覧ください。
<http://www.pref.yamagata.jp/kifu/>



◇上山便り ~吉田 晃兵衛さんより~

今日は連休終わっての5月6日です。上山は気温26度の夏日でTシャツ日和でした。

ちょうどサクラノボは満開の時期で、受粉作業の最適日でした。樹上を見上げながら、佐藤錦の花に受粉樹のナポレオンの花付き枝を擦りつけていくのです。温度も湿度も風も、豊作にならないわけがない、条件バッチリの1日でした(でも自然は人間の思いを酌んでくれるとは限らないわけで...)。一日満開の花を見上げていると、後ろの青い空と白い花の中に溶けていきそうなめまいを覚えました(文学的??)。

田舎時間の皆様にはいつも慣れない農作業を手伝ってくださり、ありがとうございます。3日前にも石本さん、東さんご夫妻、そして地元田舎時間会員(?)の三恵旅館の澄子さんの友達にも手伝ってもらって、ラ・フランスの摘花作業はかどりました。大変ご苦勞様でした。おかげさまで明日は休みにして温泉にも行こうかと相談しています。



◇穴水便り「田舎時間との出会い」~河端 勝男さんより~

私が初めて「田舎時間」と交流を持ったのは、今から6年前の2005年3月5日です。当初は「いなかへいこう」と言っていました。その当時、1年ほど前から穴水で活動していたとのことですが、全く知りませんでした。

新田さんが何回か私の所(空港事務所内行政相談室)に訪れ、「都会の若者が田舎で農漁業体験を通して交流をしている」とその活動内容を私に見せ、「一度受け入れてはどうか」と勧めました。「都会の若者を受け入れるような農漁業をしていない。迷惑をかけるだけだから」と断りましたが、新田さんの熱意に負け、一度くらいは受け入れようと決心しました。

ところが、会って一緒に作業し話し合うと、都会の若者とは全く思えない人達でした。

その後、稲ハザ作り、稲刈り、種力キ繋ぎ作業を手伝って貰い、現在に至っています。奥能登穴水町は過疎地ですが、海山に囲まれた自然豊かな土地であります。是非これからも穴水の情報を発信していただければ、私達老夫婦の今後の励みになります。

この4月に新たに3名がスタッフに加わって、スタッフ打ち合わせもさらに賑やかになりました。仕事も家庭も大切にしながらスタッフとして活動し続けるのは大変ではありますが、自分たちで考えた企画を実行することで得られる楽しみもあります。より多くの方に参画していただけたら嬉しいです。

